

校長室だより
NO. 9
平成30年5月14日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

大運動会のスローガン「わたしのチャレンジ ゆめへの一歩」

本校の5月は、5月26日（土）の大運動会に向けた活動が中心となっています。その大運動会は、体育の授業等での取り組みの学習発表の場として授業の一環と考え、競技・演技・応援とその練習を通して、子どもたちの体を鍛えるとともに、学級での子どもたちの協力性の伸長など、心身の成長をねらっています。

現在、既に練習は始まり2週目に入りました。ご家庭でも話題になっていることと思います。是非ともご支援をいただければ幸いです。それでは、本年度の大運動会の重点をお知らせします。

④ 5・6年代表のMAXの子どもたちによるスローガン作成とそれに向けた取り組み

5・6年代表のMAXの子どもたちが、本年度も大運動会のスローガンを作成してくれました。これは、特に高学年の子どもたちの大運動会に向けた気持ちを聞き取り、それをうまく表現しました。そのスローガンは、次の通りです。

「わたしのチャレンジ ゆめへの一歩」

この「わたしのチャレンジ」とは、大運動会の1つ1つの競技であり演技であり応援です。また、その中の一人一人の目標に向けた活動でもあります。その努力は、競技としては順位の上位を目指すものであり、演技としては達成感であり、応援としては協力の喜びとなります。また一人一人の目標達成にもつながっていきます。それが「ゆめへの一歩」なのです。このスローガンは、大運動会だけではなく、これから子どもたちの小学校生活にも、将来のことにも結びついていきます。だから、今の自分自身の「チャレンジ」が大切なのです。そんなことを一人一人に投げかけ、これからに希望をもたせる素晴らしいスローガンと思います。



大運動会の練習風景(1年)

このスローガンについて、代表（MAX）の子どもたちが、看板を書き、先生たちの協力もあり校舎に取り付けられました。14日（月）の1時間目の全校練習の前に、6年の代表（MAX）の子どもたちからスローガンの1つ1つの言葉の意味と、その思いの説明がありました。このように代表の子どもが、全校の子どもたちに大運動会に向けてがんばって盛り上げていこうという意識で行動してくれたことは、とても素晴らしいことと思います。これが、全校に広がり、このスローガンの意味するものが、子どもたちの心として浸透していく大運動会にしていきたいと考えています。

⑤ 体育科等の授業で学習した成果を発表する取り組み

大運動会では、体育科等の授業で学習した成果を発表する取り組みを行います。本番までの練習は、多くの授業時間を使うことから、これまで大切に考えてきたことです。そのため、レクリエーションとは「楽しむ」という意味が違い、すべてが個人

や学級集団の成長をねらう活動につながるものです。前述したスローガンからも分かっていたかと思いますが。子どもたちの競技・演技・応援等に、それぞれの目標を持った真剣な姿を求めていきます。次が主な内容です。

- ◇ 開・閉会式の入場行進と準備・整理体操のラジオ体操
- ◇ 徒競走・リレーでの走りリレーのバトンパス
- ◇ リズム体操・集団演技・組体操
- ◇ 色別対抗での応援



大運動会の練習風景(6年)

まず、開・閉会式の入場行進は、学年のねらいを明確にした、元気のよい堂々とした行進ができるようにします。特に手の振りや顔の表情、視線等、演技として真剣さが伝わるものを目指します。また、準備・整理体操のラジオ体操は、1つ1つの体操の意味を明らかにして演技種目としたものを目指しています。行進・ラジオ体操ともに1年から6年まで同じ演技をしますので、学年が上がるにしたがい成長した姿を見ていただきます。6年は入場行進・ラジオ体操も学級対抗として取り組んでいます。

2つ目の低学年の徒競走と中・高学年の学級対抗リレーの走りバトンパスは、まさに体育科の学習発表の場です。特にリレーのバトンパスは、速さを求めた息の合った妙技を求めます。学級で上級のバトンパスを目指しチャレンジする姿が楽しみです。

3つ目の学年の演技は、高学年では「進化」をテーマに、集団行動の美しさを交差する行進で表現します。また、組体操として動きを合わせる美しさを表現し、技の完成度の高さを求めます。中学年の集団演技は、「梅園プライド」体操と「笑一笑」の曲に合わせてバトンを使って表現運動を行います。動きの変化のあるバトン演技と複雑な隊形移動の美しさを表現します。低学年のリズム運動は、1年は「ドラえもん」の曲に合わせて動きにめりはりをつけて体全体を使った表現をします。2年は「キミの夢は、ボクの夢。」の曲に合わせて体を大きく動かし、友達と動きをそろえて楽しく表現します。それぞれの学年に応じた表現豊かな演技を期待したいものです。

4つ目の色別対抗の応援は、それぞれの競技について、縦割りの組別で得点を競う中で、学年を超えた意識の高まりをねらいます。例えば、上学年の競技で同じ組の上級生のがんばりを下級生が応援をする姿が期待できます。競技や演技に加えて、応援を通して、気持ちを1つにして努力する姿を求めたいものです。



大運動会の練習風景(4年)

回 昨年度から変更した取り組み

本年度、1年が5学級になりましたが、色別対抗での競い合いは継続して行います。学級の割振りについて、「色別対抗の部」での色別対抗リレーは、ペア学級交流での関係を尊重して1年1組・5組は「1組チーム」としました。そのため、1組チームの1年の選手は1・5組混合となります。また、赤白に分かれる全男の帽子取り、全女の竹取りは、1年5組を赤白に分けて、得点を競い合うこととしました。「学級対抗の部」は、学級対抗リレー(3～6年)、競遊(1・2年)で、各学級で競い合うことにしました。異学年交流の趣旨をもとにして、子どもたちが一生懸命に競技し、演技し、応援する気持ちを引き出すことをできるようにしました。